施策８　生きる喜びと創造性をはぐくむ文化・スポーツを振興する
　　－　文化・芸術活動を振興する　－

評 価	B

取組４５	芸術教育の推進	所属名	義務教育課　高校教育課

達成目標	Ｈ２０	Ｈ２１	Ｈ２２	Ｈ２３	Ｈ２４	Ｈ２５（目標値）
音楽や図画工作等が好きという児童生徒の割合	－	－	83.5%	－	80.0%	※83.3%（８０%）
群馬県高等学校総合文化祭の各専門部の参加者数	3,224人	3,477人	3,929人	4,182人	4,826人	5,250人（増加）

※「はばたく群馬の指導ﾌﾟﾗﾝ」に係る学習・生活実態調査による

【取組結果】

（義務教育課）

・移動音楽教室《文化振興課所管事業》
　平成25年度は第11次基本計画の２年次として実施した。群馬県の公立小中学校に通う子どもは、中学校を卒業するまでに、小学校で２回、中学校で１回、生の交響楽団の演奏を聴くことができる。

・基礎・基本習得のための実践研究事業
　「はばたく群馬の指導プラン」に基づき、音楽科では藤岡市立小野中学校、美術科では太田市立宝泉中学校で研究授業を実施した。

・「はばたく群馬の指導プラン：実践の手引き」の作成・配布
　各学校の音楽や図画工作・美術の授業の質的向上を目指し、「はばたく群馬の指導プラン」を解説する資料として、「はばたく群馬の指導プラン：実践の手引き」を作成・配布した。

（高校教育課）

・県高等学校総合文化祭（平成25年度は第19回）
　県高等学校文化連盟（事務局：県立前橋女子高等学校）と連携して、本県高校教育における芸術・文化活動の総合的・象徴的なイベント「県高等学校総合文化祭」を10月から11月にかけて実施した。

・高校音楽教室
　県内公私立高等学校等の約３分の１に相当する学校（在学中に１回鑑賞）を対象として毎年実施している。会場は、県内各文化会館等とし、平成25年度は年間24公演を行った。（平成20年度以前は25公演）県内公私立高等学校等の約３分の１に相当する学校（在学中に１回鑑賞）を対象として毎年実施している。）

（特別支援教育室）

・ハートフルアート展（平成25年度は第19回）
　県特別支援学校文化連盟と連携して、障害のある人もない人も共に生き、その喜びを感じるという群馬県の文化活動の在り方を広くアピールする県内公私立特別支援学校児童生徒の作品展「ハートフルアート展」を12月に5日間開催した。4,374人の観覧者があった。

結果・成果を示す実績値	Ｈ２５	実績値の推移（過去３年間）
移動音楽教室（小中学校）	57公演（298校、41,248人）	H22：62公演(320校、43,216人)、H23：74公演(315校、46,174人)、H24：79公演(337校、45,065人)
高校音楽教室（高校）	24公演(16,827人)	H22：24公演(17,043人)、H23：24公演(18,522人) H24：24公演(14,684人)

【成果】

（義務教育課）

・移動音楽教室により、児童生徒の音楽に対する興味・関心が高まるとともに、音楽性の伸長が図られた。また、鑑賞内容と音楽の授業の学習内容とを関連させることにより、音楽の授業の充実が図られた。

・基礎・基本習得のための実践研究事業により、授業改善の指導のポイント等を周知することができた。

・「はばたく群馬の指導プラン：実践の手引き」を作成・配布したことにより、伸ばしたい資質・能力を明確にした題材構想や授業改善のポイント等を周知することができた。

（高校教育課）

・県高等学校総合文化祭
　芸術・文化の総合的な発表・交流の場を設け、高校教育における芸術・文化活動の一層の活性化を図った。また、高校教育における芸術・文化活動について、広く県民に理解を促すとともに、中学校等における適正な進路指導に役立てることができた。
　平成25年度の全国高等学校総合文化祭長崎大会では、小倉百人一首かるた部門で群馬県チームがベスト８、自然科学部門（研究発表：物理）で前橋女子高校が優秀賞、新聞部門で高崎高校が優良賞、弁論部門で優秀賞（総合５位）を得るなど活躍がみられた。

・高校音楽教室《文化振興課事業》
　高等学校生徒に交響楽団の演奏を鑑賞する機会を与え、芸術鑑賞能力の向上と豊かな情操の涵養に役立てることができた。

【課題・対応】

（義務教育課）

・平成27年度より第12次基本計画がスタートするので、群馬交響楽団と連携しながら、公演計画や演奏曲目について検討していく。

・基礎・基本習得のための実践研究事業によって得られた授業改善の成果・課題について分析し、結果を音楽、図画工作・美術の授業改善に役立てる。

（高校教育課）

・県高等学校総合文化祭
　全国高等学校総合文化祭（ぐんま総文）の成果を継承していく必要があり、今後も本文化祭を充実させるとともに、本県高等学校等の芸術・文化活動の一層の活性化・充実を図る。

・高校音楽教室《文化振興課事業》
　生徒にとってより効果的になるよう、今後も群馬交響楽団とともに演奏形態、曲目等を工夫することが必要である。

【５年間の総括】

（義務教育課）

・移動音楽教室は、毎年計画的に実施されており、音楽性の伸張に資する事業となっている。また、音楽や図画工作等が好きな児童生徒の割合は、２度の調査で80%を超えており、良好な状況であると考える。

（高校教育課）

・芸術・文化に対する理解や基盤づくりに資するため、総合的な発表・交流の場を設け、高校教育における芸術・文化活動の活性化を図ったことにより、群馬県高等学校総合文化祭の各専門部の参加者が増加した。

・県内公私立高等学校等の約３分の１に相当する学校（在学中に１回鑑賞）を対象として毎年実施してきた高校音楽教室により、高校生に交響楽団の演奏を鑑賞する機会を与え、芸術鑑賞能力の向上と豊かな情操の涵養に役立てることができた。

参考 知事部局（関係所属の自己点検・評価）

施策８　生きる喜びと創造性をはぐくむ文化・スポーツを振興する
　　－　文化・芸術活動を振興する　－

評 価	A

取組４６	文化・芸術活動の振興	所属名	文化振興課

達成目標	Ｈ２０	Ｈ２１	Ｈ２２	Ｈ２３	Ｈ２４	Ｈ２５（目標値）
児童生徒が群馬交響楽団の演奏を直接鑑賞できる機会	平成21年度より計画的に実施（小学校で2回、中学、高校で各1回鑑賞できる機会を確保）					
はじめての文化体験事業派遣先数	12か所	12か所	16か所	20か所	20か所	20か所（20か所）
県立美術館・博物館が実施する教育普及事業の年間参加者数（５館合計）	81,191人	85,536人	101,343人	130,245人	118,490人	139,427人（90,000人）

【取組結果】

・基本計画の記載事業
　①　伝統文化継承事業（「群馬のふるさと伝統文化」支援事業、「地域の文化」支援事業）
　②　移動音楽教室、高校音楽教室
　③　はじめての文化体験事業
　④　優れた芸術文化に触れる機会を増やす（県立美術館・博物館入館者数）

結果・成果を示す実績値	Ｈ２５	実績値の推移（過去３年間）
伝統文化継承事業	43件	H22：29件、H23：21件、H24：43件
移動音楽教室	57回	H22：62回、H23：74回、H24：78回
高校音楽教室	24回	H22：24回、H23：24回、H24：24回
はじめての文化体験事業	25か所	H22：16か所、H23：20か所、H24:20か所
優れた芸術文化に触れる機会を増やす（県立美術館・博物館５館入館者数合計）	520,071人	H22：472,435人、H23：505,056人、H24：489,722人

【成果】

①　伝統文化継承事業
　「文化振興基金」を活用し、伝統文化の継承や文化資産を活用した地域づくりにつながる県民の自主的、主体的な文化活動の充実を図った。また、「上毛かるた」を通じて、子どもたちに郷土への誇りと愛着を育んだ。

②　群馬県文化振興指針の策定
　群馬県文化基本条例の制定を受けて、文化の振興に関し、総合的かつ効果的な推進を図る基本的な施策を示すために策定した。

③　移動音楽教室、高校音楽教室
　群馬交響楽団への支援により、子どもたちが本物の芸術文化に触れる機会を提供した。

④　はじめての文化体験事業
　県内アマチュア文化団体の社会貢献促進のため、優れた文化芸術活動を行うアマチュア文化団体を学校等へ派遣し、子ども向けの公演・講話・実技披露やワークショップ等を開催した。

⑤　優れた芸術文化に触れる機会を増やす
　県立美術館・博物館では、県民に芸術文化等の鑑賞機会を提供するため、魅力的な企画展を開催するとともに、ワークショップや体験学習等の教育普及事業をより一層充実させた。

【課題・対応】

・失われつつある地域の連帯感を取り戻していくため、地域の伝統や文化を継承し、地域の絆を深めていくとともに、文化による県民主体の地域づくりを進める必要がある。
・長期的視点から、文化活動が自主・自立・持続できる環境づくりが必要である。
・群馬交響楽団は、県民のオーケストラとして親しまれており、引き続き支援を行うとともに、経営改善を図るため徹底した経費削減に取り組む必要がある。
・県民芸術祭は、県民にとって参加しやすく親しみやすい芸術祭として定着してきており、個性豊かで創造性に富む群馬の文化の振興を図るため、今後とも充実に努める必要がある。
・県立美術館・博物館は、県民に優れた文化芸術に触れる機会を提供するため、利用者の視点に立って運営を見直し、今まで以上に利用者を増加させる取組を行う必要がある。

【５年間の総括】

・「文化振興指針」の策定により、文化振興施策を総合的かつ効果的に推進するための体制が整い、各実施事業が県民の間で定着し、一層の文化振興を図ることができた。県立美術館・博物館においては、教育普及事業の年間参加者数、５館合計の入館者数が目標数値を上回り、優れた文化芸術に触れる機会を県民に提供できた。

施策８　生きる喜びと創造性をはぐくむ文化・スポーツを振興する
　　－　文化・芸術活動を振興する　－

評 価	A

取組４７	文化財の保護と活用	所属名	文化財保護課

達成目標		Ｈ２０	Ｈ２１	Ｈ２２	Ｈ２３	Ｈ２４	Ｈ２５ (目標値)
国及び県指定等の文化財の数		828点	862点	865点	878点	871点	873点 (870点)
「今住んでいる地域の歴史や自然について関心がある」児童生徒の割合	（小６）	50.4%	49.9%	－	－	68.5%	66.3% (60%)
	（中３）	24.5%	24.6%	－	－	41.8%	41.0% (40%)
県埋蔵文化財調査センター発掘情報館の入館者数		12,607人	15,195人	12,224人	13,715人	19,255人	15,034人 (16,000)

【取組結果】

・国・県指定文化財への新規指定を促進するとともに、県文化財保護審議会で「記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財」として「群馬の粉食文化・オキリコミ」を選択し、県として初めて「食」を文化財として保護の措置を講じた。
・文化財パトロールを実施して指定文化財の実情を把握するとともに、指定文化財の整備・修理事業や埋蔵文化財の発掘調査に対する事業費の支援を行った。
・史跡観音山古墳及び史跡上野国分寺跡の管理と公開を行い、活用を図った。上野国分寺跡では整備事業を継続し、発掘調査現地説明会や地域行事と連携した古代史講座を開催した。
・県埋蔵文化財調査センター発掘情報館での文化財の公開と普及事業を行った。
・県内古墳の現状を把握し、古墳の保護・活用策を検討する基礎資料とするため、古墳総合調査を実施した。
・金井東裏遺跡出土甲着装人骨等の詳細調査を実施し、随時報道に資料提供して成果を公表した。
・古代東国文化サミットでの古代体験広場や古墳に関する展示会、古墳の絵のコンクール等を開催した。

結果・成果を示す実績値	Ｈ２５	実績値の推移（過去３年間）
文化財保存事業等実施数	64事業	H22:58事業、　H23:51事業、　H24:71事業
文化財パトロール回数	620回	H22:620回、　H23:620回、　H24:618回
観音山古墳見学者数	16,147人	H22:15,910人、H23:17,074人、H24:14,987人
上野国分寺跡ガイダンス施設入館者数	7,944人	H22:5,801人、　H23:5,910人、　H24:8,466人
試掘件数	54件	H22:48件、　H23:65件、　H24:61件
文化財情報へのアクセス件数	33,456件	H22:26,366件、H23:21,067件、H24:22,755件

【成果】

・群馬の文化財に触れる様々な機会を一般県民に提供し、郷土群馬に対する関心や愛着をもつきっかけを作ることができた。
・文化財の保存・修理事業に対する支援や､文化財パトロール・史跡等の公開活用を実施することにより、文化財の適正な保存管理を図ることができた。また、開発事業者との調整により、埋蔵文化財保護対策を図ることができた。
・上記のような文化財の活用や広報活動が徐々に児童生徒にも浸透し、新学習指導要領の郷土への関心や郷土愛を育む活動との相乗効果により､「今住んでいる地域の歴史や自然について関心がある」児童生徒の実績値が目標値を上回った。ただし、昨年度の実績値より微減している。

【課題・対応】

・史跡上野国分寺跡の整備事業が再開できたが、文化庁や整備委員会の指導のもと、発掘調査を進め、調査成果を集めた後、整備事業のための基本計画や基本設計を策定していく必要がある。南大門の復元整備等から、当時の国策である国分寺の偉容を県民に実感させ、地域の文化財への興味関心を高め、郷土に愛着や誇りをもてるように、史実に根ざした整備事業を進めていくことが必要である。
・金井東裏遺跡出土甲着装人骨等の詳細調査や、古墳総合調査の成果を、県民文化の向上や県のイメージアップにつなげていくための、効果的な情報発信や活用方法を検討することが必要である。

【５年間の総括】

・文化財の保護、活用活動の伸張、活用に係る広報活動、国・県が補助する指定文化財の歴史的価値付けに磨きをかける整備事業等が社会教育に浸透するとともに、学校教育では、これらの活動が郷土愛や地域社会への誇りと愛情を育てる総合的な学習の時間や校外学習等と結び付くことができ、関心のある児童生徒の割合が上昇していると思われる。今後とも工夫を重ねながらこれらの活動を継続していく。
・埋蔵文化財包蔵地の情報を県のＨＰで広く公開して周知したり、試掘調査データを基に開発事業者と調整を行うなど、埋蔵文化財保護対策を図ることができた。
・文化財に関する知識の普及や広報活動等において本県の古代東国文化を積極的に発信していくことが必要である。

参考 知事部局（関係所属の自己点検・評価）

施策８　生きる喜びと創造性をはぐくむ文化・スポーツを振興する。
－　文化・芸術活動を振興する　－

評 価	A

取組４８	「富岡製糸場と絹産業遺産群」の世界遺産登録	所属名	世界遺産推進課

達成目標	Ｈ２０	Ｈ２１	Ｈ２２	Ｈ２３	Ｈ２４	Ｈ２５ (目標値)
ユネスコ世界遺産登録	－	－	－	－	ユネスコへ推薦書を提出	現地調査 【Ｈ２６世界遺産登録】 (平成24年度以降決定)

【取組結果】

○　**世界遺産登録推進**
・イコモスによる現地調査が実施された。

○　**学校キャラバン**
・世界遺産伝道師が学校に出向き、児童・生徒に絹産業遺産群の歴史と文化、世界遺産の制度などを学んでもらう。

○　**市町村支援**
・構成資産の保存修理等補助を行った。
（富岡製糸場発掘調査、荒船風穴石垣調査　等）
・世界遺産関係市町村の調査研究及び保存・活用、広報、周辺整備等の事業への補助を行った。
（田島弥平旧宅近くのふるさと公園駐車場整備、高山社跡保存整備基本設計　等）

○　**普及広報・地域連携**
・伝道師協会等との協働による広報・キャンペーン活動を行った。
・世界遺産登録運動に取り組む民間団体への補助を行った。
・富岡製糸場へ解説指導員を派遣した。
・関係市町へサポート職員を派遣した。
・各種広報資料を作成した。

結果・成果を示す実績値	Ｈ２５	実績値の推移（過去３年間）
富岡製糸場来場者数	31.5万人	H22：20.6万人、H23:23.1万人、H24:28.7万人
富岡製糸場世界遺産伝道師協会会員数	272人	H22：248人、H23: 243人、H24:266人

【成果】
・イコモスによる現地調査の実施
平成25年９月、ユネスコの諮問機関であるイコモス（国際記念物遺跡会議）による現地調査が実施された。

【課題・対応】
・世界遺産登録後も、４資産の保護を進めるとともに、県内に多数残る絹産業遺産とあわせて活用することにより、県内各地域の観光振興や文化振興を推進する。

【５年間の総括】
・平成24年度に推薦が決定、平成25年度にイコモスによる現地調査を実施し、平成26年度の世界遺産登録に向けて、順調に準備が進んできた結果、平成26年６月、「富岡製糸場と絹産業遺産群」を世界遺産に登録することができた。

参考 知事部局（関係所属の自己点検・評価）

施策８　生きる喜びと創造性をはぐくむ文化・スポーツを振興する
　　－　スポーツを振興する　－

評 価	B

取組４９	生涯スポーツの振興	所属名	スポーツ振興課

達成目標	Ｈ１７	Ｈ２０	Ｈ２１	Ｈ２２	Ｈ２３	Ｈ２４	Ｈ２５（目標値）
週１回以上の運動・スポーツ実施率（青年・壮年）	青:34.2% 壮:22.8%	－	－	青:51.8% 壮:29.5%	－	－	－ （50%）
市町村のスポーツ振興基本計画策定率	－	71%	74.3%	77.1%	91.4%	97.1%	97.1% （85%）
総合型地域スポーツクラブが設置されている市町村の割合	－	34.2%	51.4%	65.7%	71.4%	71.4%	77.1% （65%）

【取組結果】

①　マスタープラン研究協議会

各地域におけるスポーツ振興方策の検討や市町村におけるスポーツ振興の基本計画の策定を推進するため、教育事務所ごとに開催した。

②　広域スポーツセンター事業

県内各地域で展開される総合型地域スポーツクラブの設立や運営、スポーツ全般について効果的な支援を行うため、特に未育成町村等に対して、現地において総合型地域スポーツクラブの必要性を理解してもらうための説明会を開催するなど、創設に向けての普及啓発活動を行った。その結果、平成25年度に未育成の１町が解消されることになった。

③　県立学校体育施設開放等の事業

昭和52年度から県立学校の数校ずつを条件整備し、現在では20校で開放事業を実施している。

④　体育功労者及び社会体育優良団体表彰

生涯スポーツ功労者・生涯スポーツ優良団体表彰（文部科学大臣表彰）、群馬県体育功労者・社会体育優良団体表彰（教育長表彰）等で、地域や職域において生涯スポーツの健全な普及及び発展に貢献した生涯スポーツ関係者及び生涯スポーツ団体に対して顕彰及び国への推薦を行った。

結果・成果を示す実績値	Ｈ２５	実績値の推移（過去３年間）
県立学校体育施設開放利用件数	3,295件	H22：2,016件、H23：2,131件、 H24：2,119件
生涯スポーツ功労者及び生涯スポーツ優良団体表彰（知事表彰）	34名 22団体	H22：36名22団体、H23：34名23団体、 H24：35名25団体 ※H24まで体育功労者及び社会体育優良団体表彰（教育長表彰）

【成果】

・「生涯スポーツの振興」に関しては、市町村単位の取り組みが重要であり、各市町村における学校体育施設開放事業やスポーツイベントの開催などのスポーツ振興施策が定着してきている。

・地域スポーツの活動拠点となる総合型地域スポーツクラブの設立や運営の支援、普及啓発等の活動の成果によりクラブ数が増加した。

《平成25年度：44クラブ（設立準備中４クラブ）→平成26年度45クラブ（設立準備中２クラブ）》

・市町村のスポーツ振興計画の策定とスポーツ振興施策の推進のため、県内５ブロックに分けてマスタープラン研究協議会を開催した。市町村スポーツ振興基本計画の策定率は97.1%と当初の目標を達成している。（残り川場村）

【課題・対応】

・地域のスポーツ振興を図り、県民の運動・スポーツ実施率を向上させるためには、身近なスポーツ環境の整備が不可欠である。今後は県民が気軽にスポーツができる機会と環境づくりを目指し、総合型地域スポーツクラブ未育成町村への普及啓発事業と合わせて現在活動中のクラブの機能強化や県立学校体育施設開放事業をさらに推進する。

【５年間の総括】

・着実な取組により、スポーツ振興基本計画策定率、総合型地域スポーツクラブ設置の市町村の割合の目標を達成することができた。引き続き、スポーツ環境の充実を図り、スポーツ実施率の向上を目指す。

参考 知事部局（関係所属の自己点検・評価）

施策８　生きる喜びと創造性をはぐくむ文化・スポーツを振興する
　　－　スポーツを振興する　－

評 価	B

取組５０	競技スポーツの振興	所属名	スポーツ振興課

達成目標	Ｈ２０	Ｈ２１	Ｈ２２	Ｈ２３	Ｈ２４	Ｈ２５（目標値）
国体男女総合成績（天皇杯順位）	22位	17位	20位	21位	16位	14位（10位台）
群馬県スポーツ賞顕彰の受賞者数	160人 2団体	144人 1団体	123人	106人	111人	180人 1団体 （150人）
群馬県競技団体の登録人数	147千人	148千人	161千人	147千人	138千人	141千人 （149千人）

【取組結果】

①　競技力向上対策支援事業

国民体育大会に参加する41競技団体、２学校体育団体が実施する競技力向上対策事業に対する支援や競技力向上フィードバック対策及び総合一貫強化対策事業に対する支援を実施した。その結果、第68回国民体育大会では、７競技で10種目が優勝し、総合得点1,036.5点、総合成績14位の成績を獲得した。また、ジュニアの発掘・育成を目的とした「ぐんまスーパーキッズプロジェクト」では事業の実施が３年目となり参加者（スーパーキッズ）も志を高く積極的に取り組めた。

②　群馬県スポーツ賞顕彰等推進

平成25年8月に開催した第95回全国高等学校野球選手権大会では前橋育英高校が出場し、見事優勝を飾り、県民に大きな感動を与えた。その栄誉を讃え、平成25年10月17日・県庁舎県民ホールで県民栄誉賞顕彰式並びに報告会を実施し、選手18名に対しては優秀選手賞を授与した。このほかに、顕彰規定に基づき、平成26年3月12日・昭和庁舎正庁の間で、優秀選手162名に対して顕彰した。

③　国民体育大会参加推進（平成24年度対象者1,190名、関東ブロック大会、本大会、冬季大会）

群馬県代表として国民体育大会に参加する選手・監督を、国民体育大会派遣費補助事業により支援した。

④　各種競技大会の開催・派遣

各種大会の本県開催費補助（7件）と有力選手の海外派遣等（12件13名）の経費補助を行った。

⑤　スポーツイベントの開催・誘致

県民がレベルの高いスポーツに触れ、スポーツに関する関心を高められるようスポーツのビッグイベントの開催・誘致を行った。また、県民参加型ランニングイベントであるぐんま県民マラソンを実施した。

【1月1日ニューイヤー駅伝、6月21日プロ野球公式戦（読売ジャイアンツ対中日ドラゴンズ）】

結果・成果を示す実績値	Ｈ２５	実績値の推移（過去３年間）
国体男女総合成績（得点）	1,036.5点	H22:1,014点　H23:961点　H24:1,052点
ぐんま県民マラソン実参加者数	11,278人	H22:11,872人 H23:10,873人 H24:9,710人

※県民マラソン参加者については、平成22年度から交通安全の面から、参加者数制限を実施。

【成果】

○　競技レベル向上システムの確立

・競技力向上対策支援事業の成果指標である、国民体育大会での成果（本県選手団の総合成績）が２年連続で目標に達した。

・県民のスポーツに対する意識の高揚、冬季スポーツの振興・競技力の向上に資することを目的とし、第70回国民体育大会冬季大会（平成26年度）を本県で開催するための準備業務を推進した。

・ぐんま県民マラソンでは多くの参加者の定着が図られ、「ヒト・いのち・健康」をテーマにした、県民が気軽に楽しく汗をかくマラソン大会として、大きな盛り上がりが見られた。

【課題・対応】

・スポーツに親しむ県民の増加と競技人口の底辺拡大及び競技力向上のため、県民に夢や感動を与えるスポーツイベントの誘致と各競技団体の強化事業及びジュニアのタレント発掘と育成を引き続き積極的に推進していく。

・近年、県民の健康志向の高まりと、ジョギングブームの中で「ぐんま県民マラソン」の大会運営に係る改善の要望を多く受けており、関係機関、団体と協議し対応する。また、県民の要望を踏まえフルマラソンを平成27年度から開催すべく準備を進める。

【５年間の総括】

・競技力向上対策支援事業を積極的に行ったため、成果指標である国民体育大会の成績は徐々に向上している。今後もジュニア対策の充実、スポーツ環境の向上等に努め、競技力の維持・向上を目指す。